

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

増加見込みです。

全般的に、直接の打撃は控えめです。対中東貿易の占める割合は低く、コアインフレ率(3.5%)、サーブイスインフレ率(3.7%)は抑えられているため、衝撃(こうげき)はいまだ国全体の経済には及んでいません。中央銀行は、イ

航空路線停止と運賃高騰は、旅行業者に打撃を与えました。観光業は昨年GDPの12%でしたが、3月は32%減少しました。昨年GDPの2

・6%だった貿易赤字は、観光業が低迷した上、輸入需要が増加し今年は5%程度まで

日本への期待
世界各地から

184

強国の狭間で、そして重要性増し続ける日本

ジョージアから (下)

ンフレ目標を3%近くに保つため率先して動き、5月に2年間固定してきた政策金利を8.25%に引き上げました。

地理的に、ジョージアは欧州とアジアをつなぐ古くからのシルクロード上にあります。北にロシア、南にトルコとアルメニア、東でアゼルバイジャンと接します。ウクライナ戦争は、この地域つまりコーカサス地域の貿易と人の動きを大きく変え、機会と新しい依存関係をもたしました。トルコ、アゼルバイジャンとの貿易は活発で、アルメニ

アとも良好な関係です。そしてアジアと欧州間の物品の重要な回廊、カスピ海横断国際ルートとして知られます。中国と欧州をつなぐ代替ルートとなるため、日本の皆さんにとっても注目に値します。

領土支配と歴史から対ロシア関係は複雑ですが、私たちは実務的に対応してきました。EU関係は緊張関係を経験しましたが、2023年に加盟候補国となりました。加盟交渉は停滞して、本年EUが外交旅券所持者に対するビザなし措置を一時停止しまし

たが、一般市民には影響は及びませんでした。投資家にとっても、重要なつながりは断たれていません。EUとの自由貿易協定は有効で、国内生産品は欧州市場では免税対象です。EU加盟が目標であることは変化なく、国民の4人に3人が賛成します。

友好国としての日本の重要性は高まっています。南コーカサスにおける協力は「コーカサス・イニシアティブ」を通じて深くなり、領土保全、地域安定に寄与する日本政府の支援は、経済・戦略両面にわたります。日本の中部地域の経営者の皆さんに直接伝えたいのは、ジョージアは小さくともオープンで、低負債で、急速に成長し、戦略的に重要な位置を占めていることです。われわれに欠け、日本企業が例外なく得意とするのはものづくりの文化、すなわち精密加工、品質管理、継続的な改善だということです。

コンサルタントの多くはカイゼンを学び、単なる手法ではなく規律だと理解しています。工場だけでなく、サービ

ス産業や公共部門にも根付くことを願っています。日本による投資が物流やエネルギー多様化、IT分野に向くなら、安定したマクロ経済環境と若くて活力ある労働力が得られ、見返りに、ジョージア企業は規律と一貫性を手に入れます。

私たちは不安定のご真ん中で安定を保つことを学んできました。運まかせでなく、注意深く対応することでレジリエンスを構築してきました。これが名古屋とトビリシの長く続く対話の始まりであることを期待します。

【ラシャ・ラバゼ、二ノ・キルタヴァ、リーム中産連】
(月曜日に掲載)